

(別紙4)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年 11月 15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4372601098		
法人名	有限会社 ヒューマンケア		
事業所名	グループホーム ヒューマンケア		
所在地	熊本県合志市幾久富1909-700		
自己評価作成日	H27年11月15日	評価結果市町村受理日	平成28年2月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/43/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人九州評価機構
所在地	熊本市北区四方寄町426-4
訪問調査日	平成28年1月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>季節を感じとられるような木々や花が観賞できる建物の構造になっており、入居者や家族がゆっくりと過ごせる中庭がある。地域ボランティアの訪問が大変多く、年間の行事に多く参加していただき、最近では地域支援事業である食事作りの支援も受け更に交流が増えつつある。地域交流室はボランティア活動だけではなく、母子会支援事業である放課後の塾としても活用を始めた。代表者を中心とした地域貢献活動では、近くの公園管理や保育園理事、学校評議員等を務める。在宅訪問医との連携では定期的往診体制を取り入れ、日常の健康管理、終末期の看取りまで実施、薬局との連携では薬剤管理指導も受ける体制を整えている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>周辺は公園や住宅、店舗など生活環境の利便性が高い場所にあり、地域住民との交流を積極的に行い、ホームに訪問する地域住民によるボランティアや近隣の保育園児等、多くの来訪が日常的に行われている。年間のイベントも多く、「災害時の炊き出し」は地域住民や行政を巻き込んだイベントであり、家族や地域住民の参加、協力のもと開催された。2ユニットあり、身体レベルや年齢、認知度も異なり、それぞれの管理者の下、家族の協力も得て、その人らしい生活、穏やかでメリハリのある生活が送られている。医療に関しても協力医の定期的な往診や運営推進会議への出席もあり、皮膚科も往診が依頼でき、協力医との協力体制が構築されている。職員は介護に関する知識や技術習得のために研修や勉強会への参加も積極的に行い、スキルアップの意識が高い。ヒヤリハット報告が多く、大きな事故へ繋がらないように意識も高い。代表者は職員の業務負担を軽減するために、昼食の食事作りに地域支援事業を取り入れることを採用し、それは入居者との新しい馴染みの関係作りに役立っている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の事を考えた理念になっており、代表者から職員に話をされる機会もあり実践につながっている。	設立時から地域との交流を通して開かれたホームを目指し、理念として掲げ、毎月の会議や年頭等に代表者からの話があり、職員は念頭において実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの来訪が多く今年は更に食事作りに来ていただいている。交流も多く保っている。	地域住民のボランティアとしての訪問は多く、ホームの菜園の世話や庭の手入れも地域住民の手によってなされている。ホーム内の建物の一室である地域交流室も活発に利用されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアさんを通じ地域の認知症の方の相談や施設紹介などを行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催で取組みや現状などについて細やかに報告し、いろいろな意見を聞いている。	2ヶ月毎に開催され、連携医、連携薬局担当者、ボランティア代表もメンバーであるのが特徴である。ホームの状況報告の他に、映像で示す上映会や意見交換会、家族アンケートの結果報告等が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員として定期的に話す機会があり、報告、相談がしやすい関係性を保っている。	運営推進会議のメンバーであり定期的に訪問され、意見や情報の交換を行っている。質問時は電話で連絡している。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>法的根拠のマニュアルを使用した勉強会開催や抑制を考える会の会員登録もを行い、積極的に研修参加している</p>	<p>毎月の勉強会の年間計画の中に取り入れ、毎年必ず身体拘束に関する勉強会を開催している。外部の研修参加もあり、研修受講後は報告会や資料回覧をし共有している。現在身体レベル低下の入居者が多くなり、車椅子使用時やベット周辺にセンサー等を取り付けており、家族と相談し常に職員間で話し合いながら進めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的な勉強会にて認識が薄れないように努力し、注意喚起を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会を開催した経緯があり、現在1名の入居者が制度を利用されている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居される以前に細やかに契約内容をお伝えしている。改定時その都度説明を繰り返している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年に一度家族アンケートを実施し、意見や要望を把握するようにしている。結果を元に課題を設定している。</p>	<p>面会時に家族の意見を聞く事が多く、毎月の請求書と一緒に受け持ちがコメントを書いている。年1回家族アンケートを実施し、結果も家族に報告し、改善に取り組んだり、質問に回答し、信頼関係を築いている。</p>	

11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体での会議が月に一度定期的にあり、また、管理者は個別面談を行いできるだけ意見を聞いている。	毎月代表者を含めた会議の際に職員に意見、提案を述べる機会がある。日頃の業務中でも管理者は職員の話聞く姿勢も持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員にとってより負担がなく仕事しやすいように環境を作ろうとする姿勢が常にある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりがスキルアップできるように、研修参加を積極的に支援されている業務として参加することが多い		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同系列での合同研修会に参加したり、連絡会への参加で他事業所との交流ができきるようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される以前に必ず面談し、体験としてお茶飲みに来ていただき、利用前から関係性を作るようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望に来られてから入居される段階まで、繰り返し話し合いを行い、受け持ちスタッフを付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に家族と話し合い、かつ入居前カンファレンスで情報を共有し、統一したケアが行えるようにしている		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者ができることは必ずしてもらい、お互いが助け合っている場面作りをしていくようにしている。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会を多くする場面作り、家族が直接支援される場面作りを常に考えている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうち、支援に努めている	外出できる入居者が少なくなってきたが、友人との外食会に出かけたり、お見舞いに行く方がおられる。	以前から利用されていた美容院へ職員か家族が連れて行っている。定期的に友人との外食に出かけられる入居者もいる。馴染みの関係を大切に継続できるように支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い人同士がそれぞれ好きな場所で一緒に過ごせるようにしているが、関わりができない入居者も増えた		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先への訪問、看取りを終えてからもボランティアとして来られている方もいる。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いを表現できない方が増えたので、本人本位になるように職員間で話し合いを密に持つようにしている。	直接会話から把握できることもあるが、困難な方は会話の反応やしぐさ家族からの情報をもとに職員間で検討し、共有している。	

24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の情報集収で、馴染みの暮らし方や環境を把握するようにしている。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>入居前に家族や担当者などから生活の状況を詳しく聞き、本人のできることを把握するようにしている。</p>		
26	<p>10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>月2回のスタッフカンファレンスで、現状とプランの確認を行い、修正と情報交換を行っている。家族とは面会時話し合う。</p>	<p>受け持ちの入居者のアセスメントは年1回行い、月2回カンファレンスにて職員の意見を取り入れたモニタリングを実施し、定期的に介護計画の見直しをしている。家族や本人の意見を取り入れた介護計画を計画作成担当者が作成している。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>現プランに沿った記録で、変化がある事柄に関しては、SOAP法で記入。アセスメントを重要視している。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>全体ではなく一人一人に合う食事形態に組み換え、福祉用具などもその時の個人の状態に合わせて、変更している。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域サロンの方での食事作りや多くのボランティアさんによる行事など交流しながら楽しめる機会が多くある</p>		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>以前からのかかりつけ医を継続して受診される方もいるが、ホームの往診を依頼される方も多い希望で選択可</p>	<p>以前からの医療を受けられるようにしているが、連携医による訪問診療へ変更される入居者もいる。職員による通院支援と家族による場合もある。その際には情報を提供し、受診後は情報を共有している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師が常勤として配置されているため、早めの処置と主治医への報告、指示受けができています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>情報交換は細やかに行き、退院に向けての話し合いにも積極的に参加している日頃からの関係性を重要視する</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時より話をする機会を設けその時々で変化する家族の思いや意向を確認しチームケアができるように十分話し合いをする</p>	<p>入居時にホームの重度化や終末期に関する方針を説明し、了承いただいている。その都度、家族の意向を聞き、希望に沿うように、かかりつけ医や看護師、家族と話し合いを重ね、連携を取ながら、家族の希望に沿って進めていく。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防訓練の中で救急救命法、応急処置法などの実技講習を毎年定期的に受講している。</p>		

35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の消防署を入れる防火訓練を行っており今年春には地域を交えた炊き出し訓練も行った</p>	<p>毎年2回、昼夜想定、入居者参加出火災避難訓練を実施している。消防署の指導のもとの実施と自主訓練である。搬送方法、止血方法、異物除去の研修も実施している。地震の講習会に参加している。運営推進会議のメンバーや民生委員、地域ボランティア、家族も参加し、災害模擬訓練である炊き出しを行った。</p>	
<p>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>高齢者は自分達の尊敬すべき大先輩であるという考え方で日々接するようにしている。接する態度や言葉には注意をしている</p>	<p>入居者の人格を尊重し、それぞれの生活歴や性格等に合わせた言葉かけや対応をしている。親しくなりすぎて言葉使いが馴れ馴れしく場合もあり、職員間で注意し合っている。</p>	<p>その人らしい活動や思いを支援することが困難に成ってきている時期だと思いますが、出来るだけ本人の希望を引き出すことを望みます。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>自分の事を表出できない方が多くなっている中、できるだけ表現されない部分を把握するように努力している。</p>	/	/
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>業務的な関わりではなく個々に注目し個別ケアを心掛けている重症者が多くなりできないことも増えている。</p>	/	/
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>個性を大事にした服や髪型、訪問理容での散髪を2か月に1回利用している。</p>	/	/

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は個々の食べる力により変化させ、後片付けは職員と入居者が一緒になって楽しく行っている。</p>	<p>献立は入居者の好みや季節感を考慮し職員がたてており、地域支援事業を取り入れ週4日昼食作成を依頼している。出来る入居者と下膳や片づけを一緒に行っている。職員も同じ時間にテーブルにつき、一緒に食事を摂っている。嚥下能力に応じて食事の形態を変えている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量を細やかに観察、記録し、一人ひとりに合わせた食事提供を行い栄養状態には注意を払っている。</p>	/	/
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアを行い、週1回の訪問歯科診療にて専門的なチェックと必要時の治療を行っている。</p>	/	/
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表を利用しながら個々に合った排泄パターンを把握し、自立性が持てるように支援している。</p>	<p>観察ケアチェック表の排泄チェックを記録し、それぞれのパターンを把握している。時間や素振りを見極め、トイレへの誘導や声かけを行っている。夜間には排泄用具、リハパンにパットを加えたりとそれぞれに応じた支援を行っている。</p>	

44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>1日の水分量を多くし毎日の体操を行う。また便通がよくなるような食材を入れた献立づくりをしている。</p>		
45	<p>17 ○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>個々の希望や必要性を考えその日の入浴者を話し合っ決定。重症者が多くなり希望に添えない現状もある。</p>	<p>週2～3回を基本とし、希望や体調を考慮し、入浴支援を行っている。汚染時にはシャワー浴や部分浴で対応することもある。拒否の場合は無理強いせず、時間を置いて声をかけたり、違う職員に変わったり、工夫している。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりのその日のペースに合わせた休息を検討し、声掛けや入床の誘導を行っている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>内服説明書をファイルし、確認しながらの薬セットと与薬をしている。作用を読む機会を作っている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>本人が好きでできる事には注目し、生活の中にうまく取り入れながら声かけし楽しく過ごせるようしている</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>以前と比べると日常的な外出は難しくなったが一部の方は定期的な外出やドライブを楽しまれている。</p>	<p>中庭での日光浴や外気浴、近くの公園へ行ったり、近隣への外出は頻繁にしている。季節毎、花見やドライブに出かけている。家族の協力を得て、外食や買い物に出かける入居者もいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在現金を所持し管理できる方はいない。ホーム側で預り金という形で管理している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族と一緒に携帯電話で話をされる方がいる。手紙は年賀状や暑中見舞いなどを送付している</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節ごとの飾り付けや写真などの掲示を行い、臭いに関しては徹底的な換気とEM菌製品を使用環境改善を行う</p>	<p>共有部分のリビング、食堂は季節感を大事にし、家庭的な雰囲気を醸し出すような飾りつけをしている。イベントの写真等も飾っている。トイレやお風呂も分かりやすい様に工夫している。清潔な環境を造っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う人同士が一緒に過ごせる家具の配置をその時々で検討しながら、区分した方がよい関係性も考慮している。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の居室は馴染みの家具や寝具を持参してもらい、本人や家族の意見を反映させた居室にしている。	家族に協力を依頼し、以前使用されていた家具や生活用品の持ち込みをしている。身体レベル低下の入居者のベット周辺には家族作のクッションなどが置かれ、安全で過ごし易い居室づくりの支援がしてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いす使用者が増える中、自力動作を促し安全な生活ができるようバリアフリーとなっており手すりも設置		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

(別紙4)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 年 月 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4372601098		
法人名	有限会社 ヒューマンケア		
事業所名	グループホーム ヒューマンケア		
所在地	熊本県合志市幾久富1909-700		
自己評価作成日	H27年11月15日	評価結果市町村受理日	平成28年2月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/43/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人九州評価機構
所在地	熊本市北区四方寄町426-4
訪問調査日	平成28年1月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については会議の中で代表が話される事もあり、職員で唱和したり、実践につなげる努力はしている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	事業所から外部に出向く事は殆どないが、地域ボランティアの訪問は多く馴染の関係も出来ている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方を通じて相談にのる事等はあるが、積極的な取り組みは行っていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を実施し、それぞれの報告、話し合いを行っているが深いところまでの話し合いまでには至っていない		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には運営推進委員として会議にも参加して頂き、その都度報告、相談させて頂いている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的	一例だけ家族の希望がありつなぎ服の使用があったが再アセスメントを		

		な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	繰り返し、抑制をしないケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を実施している。スタッフがストレスを抱え込まないようにし、注意を払い、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	より具体的な勉強会を実施することは出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にきちんと時間をとり、契約書や重要事項説明書などの説明を丁寧にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回のご家族へのアンケート調査を実施しご家族の意見、要望等を把握し運営に反映させている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者、職員の全体会議である「方針会」を毎月1回開催しお互いの意見が出せる機会は設けられている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の実績や勤務状態、今後目指す資格取得等を把握され、メンタルの部分でも継続的に支援されている		

13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修参加は常に推奨され、積極的に研修参加し個々のスキルアップを図る様に支援されている</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>会議や研修参加を通じて他事業所との交流を持ち、お互いが助け合えるような連携を常に推奨されている</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面談を行い本人と話す時間を設け、出来るだけ安心感をもてるようにし、スタッフ間の情報の共有にも努めている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に数回面談し、困っていることや要望など詳しく聴くようにしている。良好な関係作りに努めている</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人様の対応については家族と話し合い、入居前にスタッフとミーティングを行い、統一したケアに努めている</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>調理や洗濯物たたみ等入居者様と一緒に行き、手伝って頂く事に対し感謝の気持ちを伝え支え合いの関係が出来ている</p>		
19	<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えている</p>	<p>不穏時や身体レベルが落ちてきた時等、家族とも話し</p>		

		切にしながら、共に歩みをすすめていく関係を築いている	合い対応策を考えるようにしている。受診や外出も協力して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居者の知人、友人が気兼ねなく来訪されやすい雰囲気づくりに心掛けている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士支え合う関係が築けている方もいるが、トラブルが起きる場合もある。スタッフが判断し必要時調整を行う		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設などに移られる時は、相談にのったり支援に努めている。その後も必要に応じて支援に努めている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の重度化に伴い、職員主体になることも以前より増えてきている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される段階でなるべく、それまでの家での暮らしぶり等の情報を集めている。今後、職員間の情報の共有が課題である		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録、申し送りノートの活用、バイタルの変化などを把握した上で、ご本人の状態等を観		

			察している	/	/
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスや受持ちによる評価も実施し家族意見も含めた上でプラン作成を行っているが一同に会する担当者会議は出来ていない		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等を個別の経過記録に記載し職員間での情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	/	/
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の要望に合わせて、出来るだけ支援出来るように努めている。	/	/
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公園を利用したりボランティアさんの協力を得たり、地域支援事業で食事作りの支援を頂いている	/	/
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の訪問診療を希望されるご家族が多い。適切な医療が受けられるように支援している		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ユニットには看護師は1名。何か異常があればスタッフから報告があり必要に応じ主治医へ連絡、相談し対応出来ている	/	/
32		○入退院時の医療機関との協働	入院した場合、	/	/

		<p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>早期退院のための話し合いや協力は、機会あるごとに行っている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に看取り指針の説明と同意を得、状態の変化に応じご家族にも話をしながら、ご本人に合った安心して迎えらるる終末期を考えている</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年に2回必ず行っている。 消防署の署員の方の指導を仰いでいる</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域との協力体制は具体的には出来ていない。地域の方と共に炊き出し訓練は行った</p>		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>定期的な勉強会を行い、不適切な対応がある場合は、注意し合っているが、重度化に伴い言葉遣いが、子供扱的な傾向になっている事がある</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>重度化に伴い、自己決定が出来にくい方が増えると介護者主体になってきている場面が増えている</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先する</p>	<p>献立や入浴など希望に沿っていない</p>		

		<p>のではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>い事もあるが、出来るだけその方のペースを大切にし意向を確認している</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>衣類は、ご本人の物、ご家族が選ばれた物を基本としその日の服選び等は、支援が必要な方には一緒にお手伝いしている</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事前に献立の説明をしたり、下ごしらえ(洗う・切る)や盛り付け、片付け等を一緒に行っている</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量・水分摂取量等の記録を残し評価の目安としている。食事形態についてもその方の状態に合わせ支援している</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケア支援を毎食後に行っている。義歯洗浄も週1回行っている。歯科医師による検診、訪問診療の体制がとれている</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表等を活用しながら、排泄パターンの把握に努め、オムツ使用を減らすよう努めている</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>下剤追加は、ほとんどなく、食事等の工夫や運動、マッサージ等を常に視野に入れ実施している</p>		

45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様の要望に応えられない場合も増えてきてはいる。季節の行事ごとに菖蒲湯やゆず湯等、楽しんで頂く工夫はしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の状態も把握し 身体状態に合わせ声かけも行い 必要時は昼間でも休息がとれる様な環境づくりにも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から薬の情報提供書をもらい、薬の変更時等には記録、申し送りを行ってはいるが、完璧に周知出来ていないとは言えない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、掃除、洗濯物たたみ、ちり紙たたみなど、その方の出来ること、得意な事が出来る様にケアの中に取り入れている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ外出や中庭・公園等の散歩等が出来る様努めてはいるが、困難な状況の時も多い。旅行などは出来ていない		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご自分で所持・管理されている方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により電話したい時の支援を行っている。		

		また、手紙やハガキを書く支援も行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	無機質にならないようにし、季節によって掲示物を変え季節感を出す工夫はしている。居心地の良い環境作りに努めてはいる	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所は、原則指示しない。いくつかの小集団が出来るレイアウトにしている	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、出来るだけ馴染の物を持ってきて頂いてる。状態の変化に伴いご家族に相談しながら配置換えも行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー、床もソフト素材。手摺も付てあり安心した歩行が出来る。トイレの場所が分かる様に張り紙している	

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが

59	女がつかれている (参考項目：36, 37)		3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム ヒューマンケア
作成日 平成28年 2月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	家庭的な雰囲気づくりの中では、馴れ馴れしくすることもあるという誤解がある。	職員一人一人が、専門職として、ご利用者の尊厳を重んじる言動ができる。	適切な介護理念についての研修を行い、職員全体で共通の理解を図る。入職時には個別に講義する。	H. 28. 4 H. 29. 3
2	36	先輩職員やリーダー的職員が、言葉遣いやプライバシー保護に関する現場での指導力を発揮できていない。	ご利用者の接し方などについて、職員同士が注意し合い、改善し合うことができる。	管理者、主任が率先して、意見を出しやすい雰囲気づくりをする。	H. 28. 4 H. 29. 3
3	12	新規入職がないため、現職員の負担は大きく、モチベーションの低下につながっている。	職員が、やりがいや向上心を持ちながら働き続けることができる。	ストレスマネジメント代表者、管理者が一体となって、職員のいい部分を見つけ、伸ばしていく取り組みを行う。	H. 28. 4 H. 29. 3
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

